

「マイナビ 2024 年卒大学生のライフスタイル調査  
～Z世代の就活生の“日常”と“将来”を徹底研究！～」を発表  
「結婚せず自分の収入のみで生活」を希望する女子は 12.4%で過去最高

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：土屋芳明）は、2024 年卒の大学生・大学院生を対象に「大学生のライフスタイル調査 ～Z世代の就活生の“日常”と“将来”を徹底研究！～」を実施しました。調査概要は以下の通りです。

《TOPICS》

＜現在の日常＞

- ◆ 24 年卒の学生が「楽しさを感じていること」は、男子が「YouTube、動画鑑賞」女子が「会って話す」。女子は「オタ活」が 4 位に【図 1、2】
- ◆ 学生の半数以上が Twitter と Instagram の少なくともどちらか一方で複数アカウントを保有。「本名」と「匿名」、「バーチャル」と「リアル」の人間関係などで使い分け【図 3、4】

＜将来の展望＞

- ◆ 男子の共働き希望が調査開始以来、初めて 6 割を超える。「結婚せず自分の収入のみで生活」を希望する女子は 12.4%で過去最高【図 5、6、7、8】
- ◆ 「育児休業を取って子育てしたい」割合は男子 61.3%、女子 63.2%で男女差は減少【図 9、10、11】

【調査概要】

＜現在の日常＞

現在、何に「楽しさ」を感じているか聞いたところ、前年同様男子の 1 位は「YouTube、動画鑑賞」で前年比 1.9pt 減の 40.4%、女子の 1 位は「会って話す」で前年比 3.6pt 減の 47.1%だった。新たに選択肢に加えた「オタ活、ヲタ活、推し活、推しごと」は女子が 40.9%で 4 位に入り、男子では 17.2%で 13 位だった。「推し」がいるか聞いたところ、「いる」と回答した割合は男子で 51.4%、女子は 73.8%。

「推し」の人数は、「1 人」と回答した男子が 20.3%、女子が 17.4%で、「2～5 人以上」は男子 31.1%、女子 56.3%と、男女とも複数の「推し」がいる人のほうが多かった。【図 1、2】

Twitter と Instagram について、複数のアカウントを持っている人の割合を調べたところ、少なくともどちらか一方で複数持っている割合は男子が 58.3%、女子が 80.0%で、複数アカウントの使い分けは一般的になっているようだ。どのように使い分けるか聞いたところ、男女ともに「本名と匿名（本垢・裏垢）」が最多で、男子で 31.1%、女子で 40.2%だった。SNS の活用には、共通の趣味などを通じてつながっているバーチャルな人間関係と、大学やアルバイト先などのリアルな人間関係において、自分自身のキャラクターを切り替えたい、という目的があると推察される。【図 3、4】

＜将来編の展望＞

結婚後の仕事に関して聞いたところ、共働きを希望する割合は全体の 68.2%だった。男子は 64.1%（前年比 4.2pt 増）、女子は 73.3%（前年比 1.2pt 減）で、男子は 16 年卒の調査開始以来、初めて 6 割を超え、過去最高を更新した。女子が共働きを希望する理由で最多だったのは前年同様「仕事を続けることが生きがいになると思うから（15.3%、前年比 2.4pt 減）」。2 番目に高い「仕事でキャリアを積みたい（出世したい）から（14.4%、前年比 2.6pt 増）」は 16 年卒の調査開始以来最も高い割合となった。「結婚せず自分の収入のみで生活」の割合は、男子は 10.0%（前年比 0.6pt 減）で前年よりやや減ったが、女子は 12.4%（前年比 0.8pt 増）と、16 年卒の調査開始以来最も高くなった。【図 5、6、7、8】

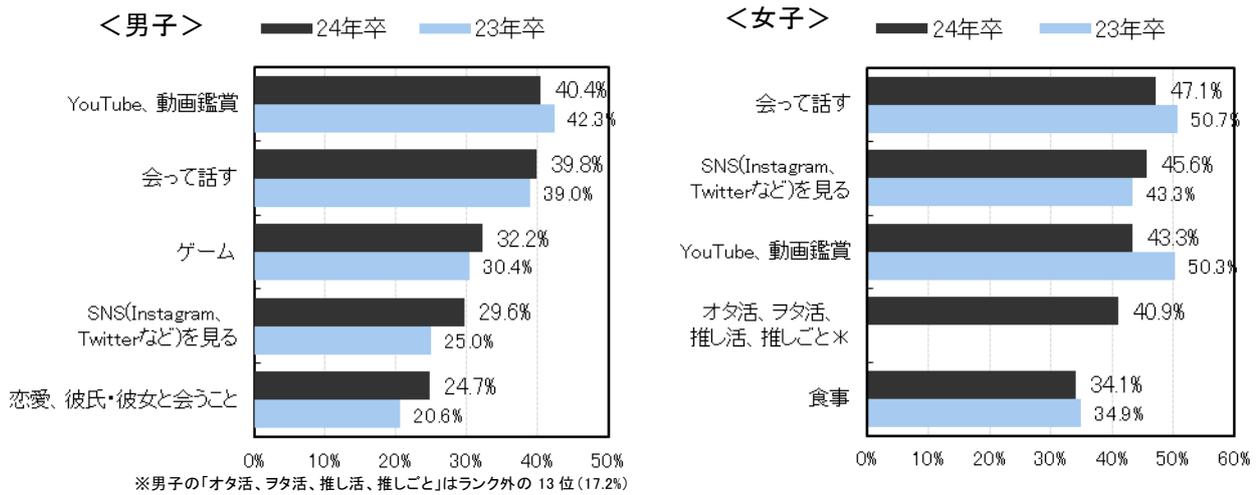
子育てについての考えを聞いたところ、「育児休業を取って子育てしたい」の割合は、男子 61.3%（前年比 1.4pt 増）、女子 63.2%（前年比 4.8pt 減）だった。男子の割合は 15 年卒の調査開始以来最も高い割合となった。「今のところあまり子供は欲しくない」の割合は、男子 8.5%（前年比 1.0pt 増）、女子 18.8%（前年比 4.3pt 増）で、いずれも 15 年卒の調査開始以来最も高い割合となった。自由記入で「子供が欲しくない」理由を聞いたところ、「子供を育てるための経済的負担が大きい」という回答と、「自分には子供を育てられる自信がない」という回答がそれぞれ見られた。【図 9、10、11】

**【調査担当者コメント】**

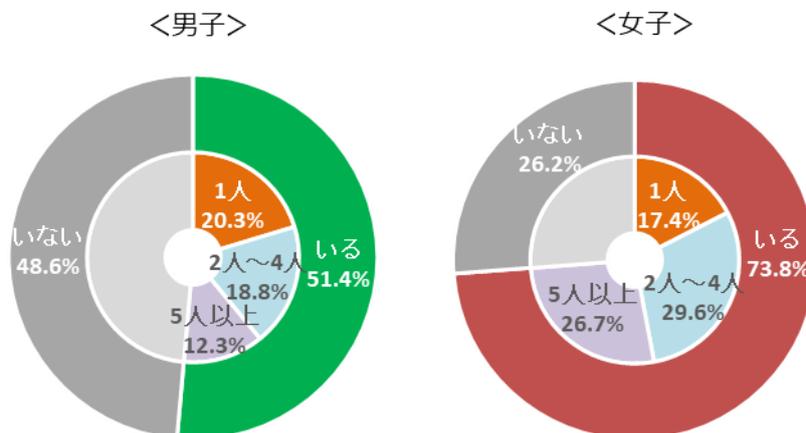
ライフスタイル調査は、毎年学生の「現在の日常」と「将来の展望」を明らかにすることを目的としています。24 年卒で印象的だったのは、「日常」における楽しみでは男女差が大きく出ましたが、「将来」の仕事・家族観では男女差がなくなってきたことでした。日常においては、男子が動画鑑賞やゲームを楽しんでいる時、女子は「推し」に対し愛情とお金を注ぎ込んでいるという姿が見えてきました。一方、将来に対しては、男女とも共働きを希望し、ほぼ同じ割合で育児休業を取得し子育てすることを希望しています。自身の将来像やキャリア観においてジェンダーでの差が縮まっていると感じます。

マイナビキャリアリサーチラボ 研究員 石田 力

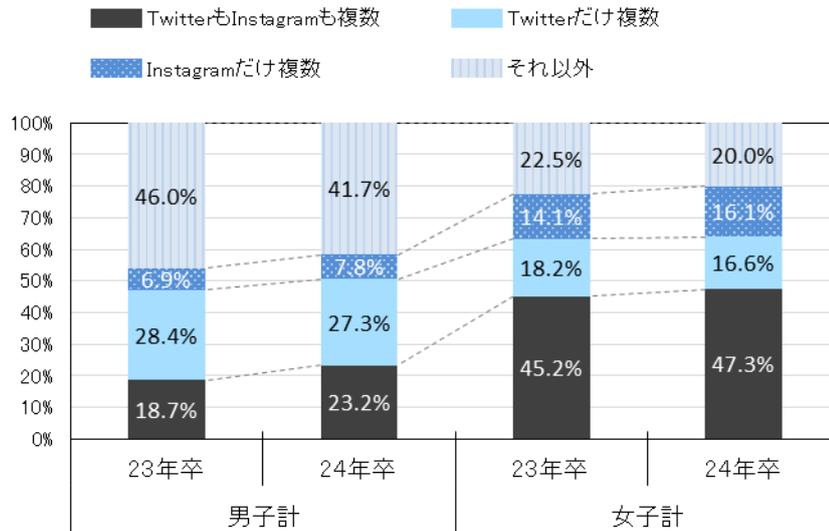
**【図 1】 今何に「楽しさ」を感じているか （複数回答）※一部抜粋**



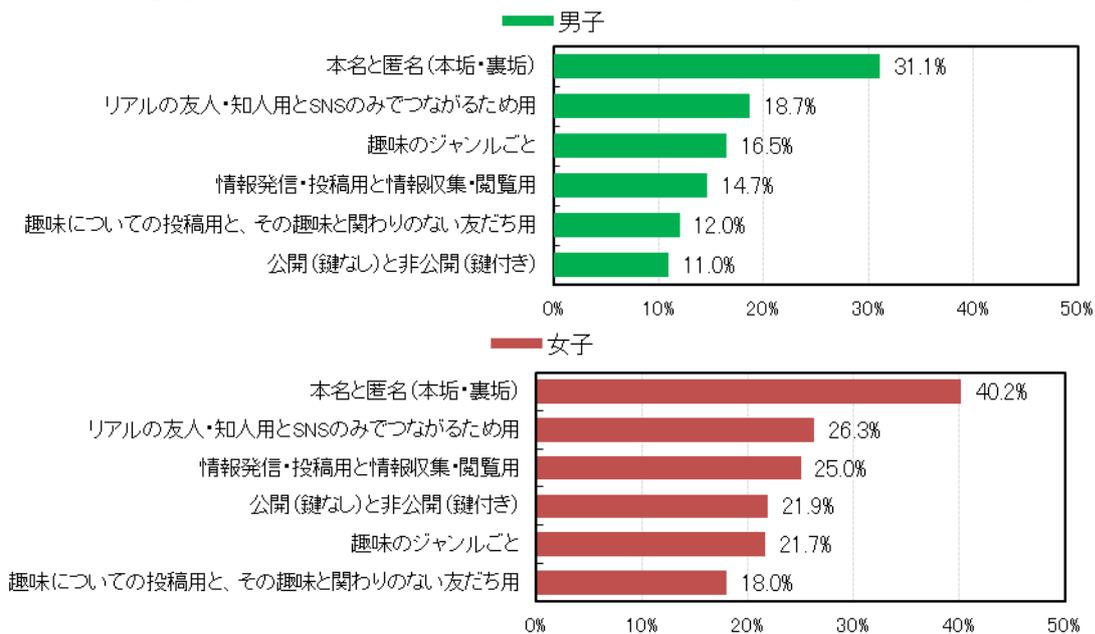
**【図 2】 あなたには「推し」はいるか、「推し」は何人いるか**



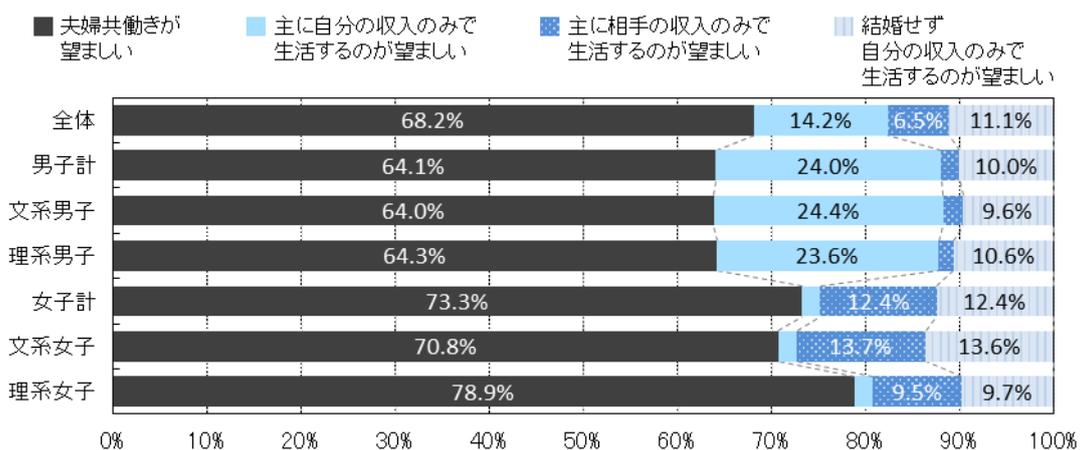
【図3】 Twitter と Instagram の複数アカウント保有状況  
n=3,101



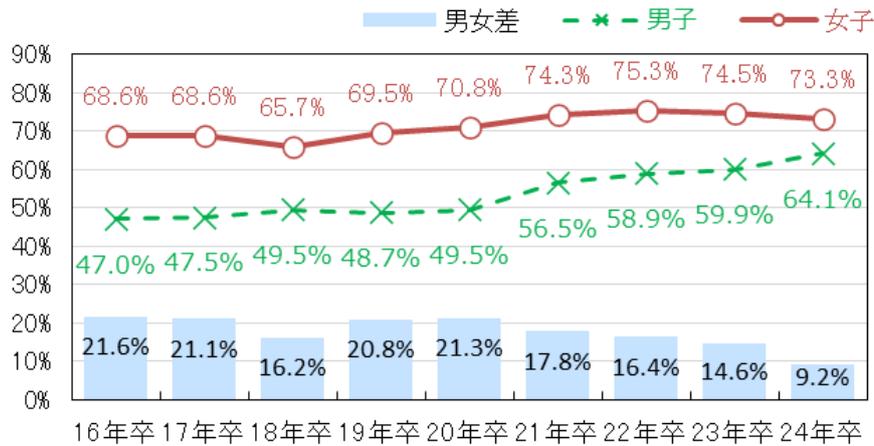
【図4】 複数アカウントをどのように使い分けているか (複数回答) ※一部抜粋



【図5】 結婚後の仕事に関してどのように考えているか

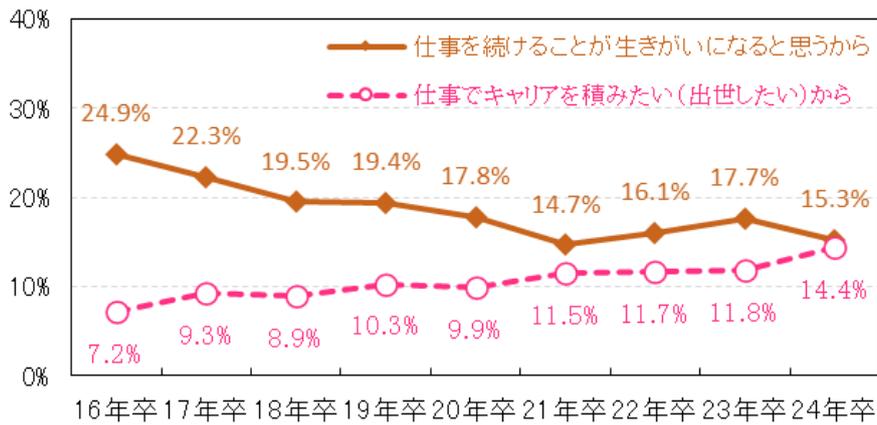


【図 6】 共働き希望の推移

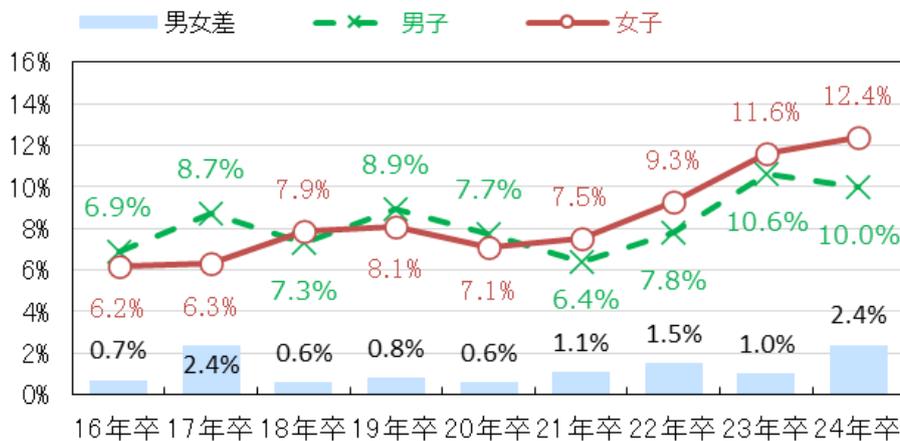


【図 7】 女子の共働きを希望する理由の推移

n=1516

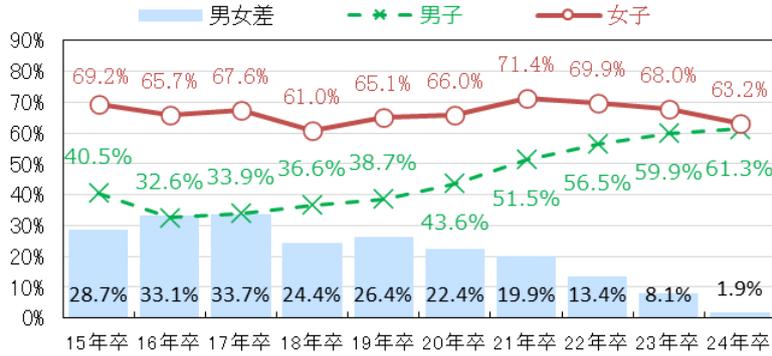


【図 8】 「結婚せず自分の収入のみで生活するのが望ましい」の推移

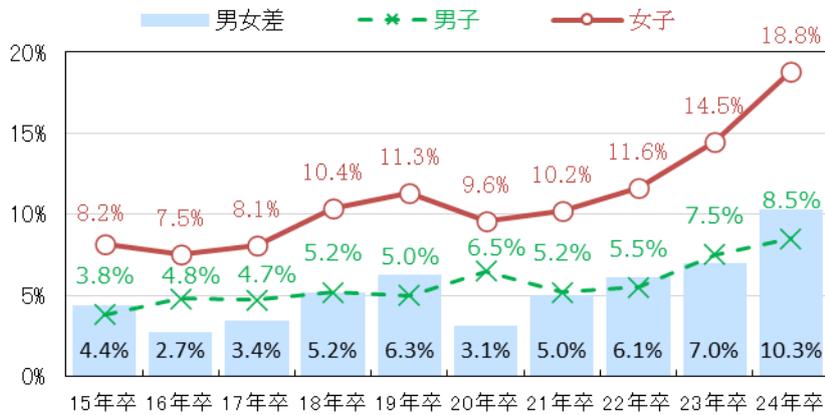


【図 9】「育児休業をとって子育てしたい\*」の割合推移

\* 23年卒までは「育児休業を取って積極的に子育てしたい」



【図 10】「今のところあまり子供は欲しくない」の割合推移



【図 11】子どもが欲しくない理由（自由記述）

文理男女	記述内容
文系男子	子育てに失敗している人を数多く見てきたうえ、自分が子育てをうまくできる自信がないため。
理系男子	現在の政策、税制だとお金がかかりすぎてしまい、自分たちの生活もままならない可能性が大いにあり得るから。
文系男子	結婚を望まないからであることと、自分のやることで精いっぱいだからです。
文系女子	責任を持って子育てをする自信がない。子育てをするための金銭的な余裕が生まれるかどうか、現時点ではわからないため。
理系女子	子育てできる環境が経済的にも制度的にも整っていないため。
理系女子	現状の世の中を見ている限り、経済的・福祉的な面から、自分の幼少期の環境と同じレベルのものを子どもに与えられるとは全く思わないから。また、出産に伴う身体的苦痛に耐えられる自信がないから。

【調査概要】マイナビ 2024 年卒 大学生のライフスタイル調査

- 調査期間／2022年11月28日（月）～12月25日（日）
- 調査方法／『マイナビ2024』の会員に対するWEBアンケート
- 調査対象／2024年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生
- 調査機関／自社調べ
- 有効回答数／3,106名（文系男子 480名 理系男子 568名 文系女子 1,325名 理系女子 733名）
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース (<https://www.mynavi.jp/news/>) からご確認いただけます。

【本件に関するお問い合わせ先】  
株式会社マイナビ  
キャリアリサーチラボ 研究員 石田  
Email : [myrm@mynavi.jp](mailto:myrm@mynavi.jp)

【当社に関するお問い合わせ先】  
株式会社マイナビ  
社長室 広報部 石井  
Email : [koho@mynavi.jp](mailto:koho@mynavi.jp)